

2017年3月17日

日本銀行大阪支店

関西金融経済動向

【全体感】

関西の景気は、緩やかに回復している。

輸出は、緩やかに増加している。設備投資は、増加基調にある。個人消費は、雇用・所得環境が改善するもとで、底堅く推移している。住宅投資と公共投資は、このところ横ばい圏内の動きとなっている。以上の内外需要を反映して、生産は、緩やかに増加している。

先行きの景気を巡るリスク要因としては、海外経済や国際金融市場の動向などが挙げられる。

【各 論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、このところ横ばい圏内の動きとなっている。

輸出は、緩やかに増加している。

設備投資は、増加基調にある。

個人消費は、雇用・所得環境が改善するもとで、底堅く推移している。

百貨店販売額やスーパー販売額は、横ばい圏内の動きとなっている。家電販売額は、白物家電の販売が増加しているが、全体としては改善の動きは鈍い。旅行取扱額は、弱めの動きとなっている。一方、乗用車販売は、新型車投入効果もあって増加している。外食売上高は、堅調に推移している。

住宅投資は、このところ横ばい圏内の動きとなっている。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、緩やかに増加している。

業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械や電子部品・デバイスが減少しているものの、金属製品や電気機械が増加している。

3. 雇用・所得動向

雇用・所得環境をみると、労働需給が改善を続けるもとで、雇用者数は増加しており、雇用者所得も緩やかに増加している。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、0%程度となっている。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて落ち着いた動きとなっている。

6. 金融情勢

預金残高は、法人預金などの増加を背景に、前年比4%台のプラスで推移している。

貸出残高は、企業向けや住宅ローンの増加などを背景に、前年比1%程度のプラスで推移している。

預金金利は、低水準で推移している。

貸出金利は、低下している。

以 上